

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号について

本県のマンゴーにおいて、キイロワタフキカイガラムシ (*Icerya seychellarum*) の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成27年11月20日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 キイロワタフキカイガラムシ *Icerya seychellarum* (Westwood)
(ワタフキカイガラムシ科)

2 作物名 マンゴー (品種:アーウィン, 施設栽培)

3 発生確認及び発生状況

(1) 発生確認年月日 平成27年4月3日

(2) 同定確認 平成27年6月15日 横浜植物防疫所 同定官 菅野奈都子

(3) 発生状況 肝属郡南大隅町 (2地点)

本年4月、県内の施設栽培マンゴーの葉に本虫が寄生しているのが確認された (図1)。本県では、南大隅町 (旧佐多町) のソテツで採取記録 (日本原色カイガラムシ図鑑, 1980) があるが、マンゴーで発生が確認されたのは今回が初めてである。マンゴーについては、過去に沖縄県で発生の記録がある。

平成27年7月の調査では、今回発生が確認されたほ場周辺の雑木では発生は確認できなかったが、同町内の別地域のソテツで寄生が確認された。なお、侵入経路については不明である。

4 形態及び生態の特徴

(1) 形態 雌成虫は楕円形で体長は4~6mm程度である (図2)。脚と触角は黒色、体色は橙黄色で、鮮黄色~白色のロウ物質に厚く覆われ、体周縁部ではこれが房状となる。このほか、背面全体に絹糸状の長いロウ物質が混ざる。

(2) 寄主植物: マンゴーの他にソテツ, カンキツ, ヤシ類等, 極めて多食性である。

(3) 被害: 葉裏, 若枝, 果梗, 果実などに発生がみられ, 葉では葉脈に沿って寄生していることが多い。口吻を植物体に差し込み栄養分を吸収し, 衰弱させる。発生が多いと株全体を枯死させることもある。また, キイロワタフキカイガラムシが排泄した甘露 (honeydew) にすす病が誘発され, 葉の光合成能力低下や果実の品質低下を招く。さらに本種の分泌する綿状及びガラス繊維状のろう物質が排泄物とともに付着し果実の外観を悪くする。

(4) 分布: 国内では四国, 九州南部, 南西諸島に広く分布する。

5 防除対策

(1) 早期発見に努め, 発生を確認した場合には, やわらかいブラシ等で擦り落とすか, 寄生葉, 枝等を除去処分する。

(2) 発生の拡大が懸念される場合には, マンゴーのカイガラムシ類に登録のある薬剤で防除するこ

とも有効である。

(3) 苗を導入する場合は寄生に十分注意する。

6 参考文献等

(1) 農文協編 原色果樹病害虫百科 第2版 5 ナシ・ビワ・イチジク・マンゴー P509-514
社団法人 農山漁村文化協会

(2) 河合省三(1980) 日本原色カイガラムシ図鑑 P88, P396 全国農村教育協会



図1 マンゴー葉上のキイロワタフキカイガラムシ 図2 キイロワタフキカイガラムシ雌成虫



図3 南大隅町にあるソテツに寄生していたキイロワタフキカイガラムシ